

校長室だより

祝 第60号

令和3年9月13日

校長 齋藤 瑞穂



ざんねん きんきゅうじたいせんげんえんちょう 残念！緊急事態宣言延長

～ 9月30日まで

新型コロナウイルスデルタ株が猛威をふるって
います。東京では、ようやく感染者数の増加がお
さえられてきたように見えますが、重症の人の
数は病院が対応できるベッドの数ギリギリの
状態が続いています。これ以上感染を拡げず、感
染した人も安心して十分な治療を受けられるよ
うにするために、緊急事態宣言がさらに9月末ま
で延長されることになりました。

みなさんにはもうしばらく、きゅうくつな生活
が続きます。地域の方々とPTAが、みなさんのた
めに毎年行ってくださっている「杉七盆踊り」も、
昨年度に続き今年も中止しなければならなくなり
ました。今年こそ、と私も楽しみにしていたので、
とても残念です。「いつになったらマスクなしで生
活できるようになるのだろう」「みんなと思いきり
歌いたい」「おしゃべりしながら楽しく食べる
給食の時間はもうもどって来ないのかな」…
長引くコロナウイルスとの闘いに疲れ、気持ちが
しづみがちになっている人も多いことでしょう。

東京都では、そんなみなさ
んに少しでも元気になってもら
い、コロナウイルスとの闘
い後の未来への夢や希望をふ
くらませてほしいと、「子供
輝く@TOKYO」と題した取り組みを行うこと
になりました。その一つとして、杉七小では、
「子供川柳『見つめよう、今と未来のわたしたち』」
を実施します。

子供輝く
@TOKYO

川柳とは、俳句と同じように五・七・五の十七
音で作る短い詩のこと。俳句とのちがいは季節
を表す言葉(二季語)にこだわらず、自由に自分の
気持ちや思いを表現できるところです。

テーマはズバリ、「今」と「未来」。次のような
ことを十七音にのせて詩にしてみてください。

見つめよう、今と未来のわたしたち ～ 川柳を募集します！～



「今」――

コロナ禍で困っていること・不安なこと
コロナ禍で気付いたこと
コロナ禍でもがんばっていること・できるよ
うになったこと など

「未来」――

コロナ禍が収束したらやりたいこと・チャレ
ンジしたいこと
コロナ禍後の世界がこうだったらいいなと思
うこと
コロナとの闘いに勝った自分の姿 など

応募作品は校長室前に掲示したり、校長室だ
りにのせたりします。一部は東京都教育委員会の
ホームページでも紹介されます。

10月1日まで募集します。いつもの投句箱へ、
ぜひ応募してください。

保護者の皆様

東京都の取組「子供輝く@TOKYO」は、コロナ禍で何か
と行動を制限されたり我慢を強いられたりしている子供たちの
悩みや苦しさに寄り添い、ポストコロナの未来に夢や希望を
もたせ元気づけようという試みです。杉七小でも、2学期は
行事等を工夫し、子供たちが活躍できる機会をなるべく多く
設けて、充実感や満足感を味わわせたいと考えています。
ぜひ温かい励ましの言葉かけをお願いいたします。